

○10月27日(土)～28日(日)開催
第3043回例会/兵庫県山岳連盟創立70周年
記念特別企画同調「県内最高峰氷ノ山と鉢伏山
パノラマコース」 山行報告

布引支部 吉野 宏(岳連/普及委員長)

昭和23年(1948年)2月23日に設立された兵庫県山岳連盟が、本年(2018年)目出度く創立70周年を迎えた。

「大正13年(1924年)藤木九三氏らが日本で初めて岩登りの練習を芦屋ロックガーデンで行ったことから「近代登山発祥の地」と謳われている神戸であるが、神戸における登山の生い立ちはもっと古い。明治初期より神戸に居住していた貿易商を中心とする外国人有志たち(H・Eドントが中心)が明治38年頃から六甲山を中心とした神戸の裏山に登り始めたのがきっかけとなり、明治43年(1910年)、日本人仲間による神戸草鞋会(後の神戸徒歩会)が発足。神戸の背山のみならず、日本アルプス方面でも盛んに活動するようになっていった。毎日登山の団体が神戸の背山に続々誕生していったのは彼らの活躍が刺激となってであり、外ならぬヒヨコもそうであった・・・」。

前置きが長くなったが、明治・大正・昭和と山をこよなく愛して止まなかった各会の先輩達が、戦後間もない時期に集結し「兵庫県山岳連盟」を立ち上げたのである。

・・・・・・・・・・・・・・・・

【1日目/10月27日(土)】



スタート地点「ハチ高原管理センター」前にて

7月から9月にかけては台風や大雨で計画していたヒヨコの例会も多く中止となり、会員諸兄もウンザリされていたことと思う。さてこの行事も天候不順で中止では?・・・と参加予定の方々は本番が近づくまでヤキモキされていただろう。案の定、本番前夜から当日3時頃までは雨脚が聞こえるほど降ったのだが、新神戸を出発するころには青空が広がり始めていた。



見事な花を付けたマユミの木(ハチ高原にて)

バスは定刻の7時に出発。神戸からの参加者は男性18名、女性25名、合計43名。募集定員数通りであった。

出発地点であるハチ高原へは10時20分着。管理センター前の楓は見事に紅葉し、肌寒さも加わって、いきなり初冬の感を味わう。諸準備を終えて40分に出発。間もなく訪れるスキーシーズンに備え、人工雪作りが始まっていた。鉢伏山頂への登り口である林道出合(峠)までは約50分。ここで小休止に入る。



久しぶりに但馬の山の空気に触れた皆さん

登山道入り口の東側から望む鉢伏山の山容はなかなか良いスタイルで、ススキの穂の白に

針葉樹の緑、それに鮮やかな紅葉・黄葉の木々たちが手前を彩り絵画のような風景であった。



峠の東側より鉢伏山山頂を望む

楽しみにしていた今回の山行に、各支部から参加された女性登山家？の皆さんは、久しぶりに味わう鉢伏の新鮮な空気に、自然とお顔もほころんでおられた。



微笑むヒヨコ女子隊(渡辺・木村・田淵・森國 各嬢)

ここから少し傾斜の増した登山道をゆっくり登っていくと 30 分程で鉢伏山山頂に立った。さすがに 1200 メートルを超えると、温まっていた身体が一気に冷える。足早に昼食を済ませ、下山方向にある高丸山を目指す。



薄雲に覆われた氷ノ山遠望。コントラストが美しい

少し下ると鉢伏安山岩（火山岩）が岩屑崩土と化したヌルヌルのすべりやすい登山道となる。この付近では一番イヤな場所ではあるが、山頂付近を薄い雲で覆った氷ノ山を、全体に色付いた鉢伏側の紅葉が際立たせ、ここからの眺めも又、趣のある風景であった・・・。

当初は高丸山からもう少しパノラマコースを進み、1019Mを超えた鞍部から宿泊地である大久保へ下る予定にしていたが、1日目なので明日への英気を十分養いたく・・・と思い、手前の小代越から朝降車した管理センターへと下って、バスで大久保へ向かうことにした。



別宮の大ケヤキ見学に行く

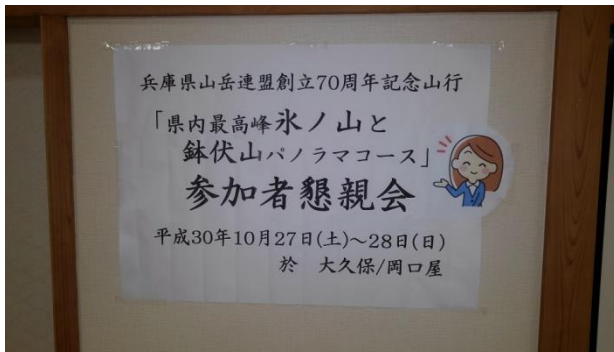


別宮の棚田より5月の氷ノ山を望む（ネット画像より掲載）

途中、棚田 100 選に選ばれている別宮（べっくう）にある大ケヤキをゆっくりと見学。ショートカットが効いたのか？、笑顔と歓声が広がって、のんびりとした初日の行動となった。

宿泊する大久保の岡口屋さんには 15 時過ぎに到着。お風呂で軽い疲れを洗い流し、17 時

半からの夕食懇親会会場大広間へ。



大広間を飾った懇親会ポスター

岡口屋さんとは三代に渡る古いお付き合いで、ヒヨコも随分とお世話になっている。現在は二代目ご夫妻のご長男様夫妻が継いでおられ、何時もご無理をお願いしている。



カニの身の取り方を指導？

今回のメニューは但馬牛のすき焼きに、大きなズワイガニが丸一匹付。皆さんカニを食べるのに大忙し！で、すき焼きの火付けまでなかなか進まない様子！しかし、アルコールもふんだんで大いにご満足された夕食懇親会となった。



笑顔笑顔のニューサークル隊メンバー



大忙しの賄い係？・・・いや、食べます係か？

【2日目/10月28日(日)】

早い朝食を済ませ、バスに乗車。福定の駐車場まで送ってもらう。登山の起点は福定親水公園。ここで兵岳連播磨支部から参加された皆さんと合流。後から追って来られた方も含め 27 名が加わり総勢 70 名の大パーティーとなった。兵岳連創立 70 周年の記念に花を添える参加数の結果となり、企画した側としては大変嬉しい限りであった。



小豆転がしの急登を慎重に登る

7時10分出発する。トップをお願いしたのは、小生と登山ガイドをコンビでしている小堀氏（ふるさと兵庫100山の選定仲間）。彼の山城研究を含めた歴史の知識には脱帽する。いいパートナーに参加していただいたものだ。播磨からは同じくガイド仲間の黒田ご夫妻が参加し

てくれていた。ラストは責任者である小生。何しろ 70 名の大所帯である。事故の無いようにと願うだけに神経が磨り減る？ように思う。

小豆転がしの急登も、昨夜の懇親会パワーの名残か、皆さん難無くクリアー。出発して約 1 時間で地蔵堂に到着。ここで小休止を取った。



地蔵堂前で小休止

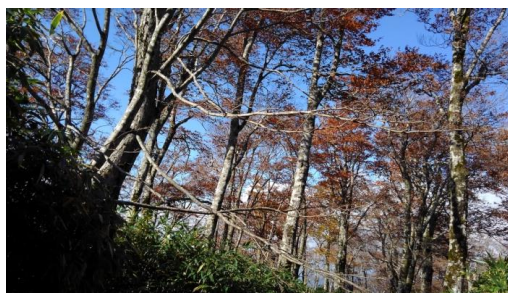
地蔵堂にある現在の本尊は、木像の地蔵菩薩坐像で、登山者の安全と避難小屋の役目としてなくてはならない建物である。

ここから少し進むとジグザグの登りとなり、途中のブナのみごとな紅葉に元気づけられながら氷ノ山越へと進んだ。



見事なブナの黄葉林

氷ノ山越からは木の根と泥濘にいい加減悩まされながら山頂を目指す。氷ノ山最大のブナ木原生林はすでに黄葉が終わり、やがて来る長い冬に耐える為の装いをしているように映った・・・。こしき岩の左を巻いて木道に出れば間もなく頂上である。スキー場から東尾根避難小屋経由の時計回りコースで来る登山客とすれ違うので結構渋滞状態となったが、無事に



黄葉の終わったブナ木の原生林



こしき岩の手前より氷ノ山山頂を望む

計画通りの 11 時に山頂に立つことが出来た。

青空の広がった山頂は、大勢の登山者で賑わっていたが、私達の総勢 70 名パーティーにはさぞビックリされたことであろう。

ゆっくりと岡口屋のオリジナル弁当をいただき、下山にかかった・・・



山頂での記念撮影（全員ではありません！）

バスの待つ駐車場へは 15 時 20 分着。約 8 時間半を要した長丁場であった。

帰路に立ち寄った与布土温泉ではもう少しゆっくりしたかったが、バス会社との契約時間もあり、時間通りの出発とした・・・。

皆様のご協力のおかげで事故もなく、多少なりともご満足いただけたのでは？・・・と一人悦に入っている次第です。参加下さったヒヨコの皆様、大変有難うございました。